□ 令和2年(2020年)第40週 2020年9月28日(月)~2020年10月4日(日)





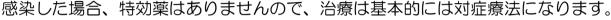
感染症発生動向調查

●RSウイルス感染症について

RSウイルス感染症は近年、夏から秋に流行がみられていたのですが、今年はRSウイルス感染症を含め、5 類定点報告疾患の感染症での報告がほとんどありません(5類定点報告疾患は下記の表の疾患です)。RSウイ ルス感染症はRSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。 発症の中心は0~1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は 感染すると言われています。

◆どんな病気?

- 症状……発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみますが、低出生体重児、 心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われています。また、初めての感染では症状 が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間~数ヶ月間)に初めてRSウイルスに感染 した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。
- 潜伏期間……2~8日程度(典型的には4~6日)です。
- ・感染経路……感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが 付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触 感染があります。
- 流行期……例年冬季にピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いてい ましたが、近年は7月頃から報告数の増加傾向が見られています。





◆予防法や対策は?

手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生的に保つ事です。子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなど は、アルコールや塩素系の消毒剤などでこまめに消毒するようにしましょう。重症化のリスクの高い乳幼児に は、医師の判断のもと、重症化を予防するためにパリビズマブ(シナジス)という薬を使用する場合がありま す。

期間		2020年 39週		2020年 40週	
		9/21~9/27		9/28~10/4(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症		O	0.00	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)		3	0.19	0	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	0.19	3	0.19
感染性胃腸炎		28	1.75	21	1.31
水痘(みずぼうそう)		3	0.19	1	0.06
手足口病		2	0.13	2	0.13
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		12	0.75	13	0.81
ヘルパンギーナ		7	0.44	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		O	0.00	4	0.25
急性出血性結膜炎		O	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		0	0.00	6	1.20
細菌性髄膜炎		O	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00